

4-(8) 産学官連携活動及び附置研究所の活動状況

本学では、地域社会や産業界との全学的な連携活動を通じて、多様な教育機会の提供を図るとともに、社会に対して際立った影響を与え続ける研究・社会貢献活動を展開している。

■共創デザイン室 [共創デザイン室 | 東北芸術工科大学 \(tuad.ac.jp\)](https://tuad.ac.jp)

地域の製造業・建設業・農業・観光などの振興を、本学のデザイン力・企画力・若い力でサポートするために、産業界との連携窓口として「共創デザイン室」を設置し、地域企業や行政機関等が抱える課題を解決する「受託研究」として、マネジメントスキルを持ったスタッフが対応している。

地元企業や行政機関等から委託を受けて、学生が地域社会や企業のリアルな課題に取り組む受託研究事業は、令和 6（2024）年度、55 件を実施した。このうち 10 件は、過去の受託研究契約の発展型となっており、連携事業への高い評価を伺うことができる。

また、事業成果は各種メディアに取り上げられ、教育研究内容を広く社会に周知・還元することができており、受験生の志望理由の中でも、産学連携や地域と連携した活動を出願の動機として挙げている者も多く、学生募集にも大きく貢献している。

■高大連携事業の推進

山形県内の高等学校に本学教員が出張講義に赴くほか、高校内での課題発表会等に本学教員が出席し講評するなど、高校生に対して学びを深め学習意欲を喚起させる取り組みを積極的に行なっている。高等学校単位で本学の施設見学も随時受け入れており、高校生が多様な分野への興味を喚起させる契機のひとつとなっている。

美術部の高校生を対象とした「デッサン講習会」、文芸部の高校生を対象とした「文芸部研修会」なども開催しているほか、高校教員対象の美術研修会や文芸研修会も開催し、高校現場での教育内容に還元できるプログラムも実施している。山形県内の大学・短期大学等の連合組織「大学コンソーシアムやまがた」の一員として、高等学校への情報発信や交流、進学説明会の開催など、多様なニーズへの対応するための連携を深めている。

また、本学では、開学以来「2つのソウゾウリョク（想像力・創造力）」と「デザイン思考」を教育の軸に、社会が抱える様々な課題を見出し、解決できる若者を育ててきた。これらの力は、探究型学習を通して育む力と大きく重なりと捉えており、今後もデザイン思考を活用し高等学校等との連携を通じて、探究を中心としたソウゾウ的な教育の場を形成していく。

探究型学習協働プロジェクト事業では、高等学校で探究科目を担当する教諭の研修・交流の場を「探究型学習研究大会」、探究型学習の成果発表の場を「全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン）」として位置付け、本学がその拠点として全国に認識されることを目指している。

令和 6（2024）年度に第 8 回となった「探究型学習研究大会」は、高校教諭のニーズに即したプログラムを構築し、309 名の参加者を集めた。「探究の今とこれから」をテーマに、有識者による基調講

演のほか、先進校 2 校の実践事例報告や教科横断型のノウハウなどが発表され好評を得た。

■全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン） [デザセン | 東北芸術工科大学 \(tuad.ac.jp\)](https://tuad.ac.jp)

令和 4（2022）年度から全国の高等学校において「総合的な探究の時間」が実施されることになった。「全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン）」は、高校生の視点で社会や暮らしのなかから問題・課題を見つけ、2 名もしくは 3 名 1 組のチームで解決方法を分かりやすく提案し、講評と表彰を行う大会で、高校生の「デザイン思考」を高める本学ならではの取り組みである。従来、実業系の高等学校による参加と活躍が目立ったが、近年では高偏差値進学校からの参加も増加し、「探究型学習の成果発表全国大会」としての存在意義を高めている。

令和 6（2024）年度に第 30 回目となった「全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン）」は、全国から 633 チーム・38 校からの応募があり、審査を通過した 10 チームが決勝大会（公開プレゼンテーション）に臨んだ。決勝大会の様子は、ニコニコ生放送及び YouTube でのライブ配信を通じて 9,100 人が視聴した。

上位入賞チームは以下のとおり。

優勝 京都府立木津高等学校 / 京都府 「Chaubt!」

準優勝 京都市立堀川高等学校 / 京都府 「Jeweravel Search」

第三位 山形県立山形中央高等学校 / 山形県 「Connect－山寺で、つなぐ、結ぶ、接続する－」

■美術館大学センター [美術館大学センター | 東北芸術工科大学 \(tuad.ac.jp\)](https://tuad.ac.jp)

本学は「芸術の心や文化を大切に思う心が、混沌とした現代社会を切り開く大きな力を持つ」とする建学の理念『東北ルネサンス』を掲げ、次代の芸術文化を担う人材育成に取り組んでいる。「美術館大学構想」は建学の志を具現化するため平成 14 年に想起され、キャンパスのみならず地域全域をオープン・エアー・ミュージアムとして展開していくことを目標とし、「美術館大学センター」を立ち上げた。

本センターは平成 17 年度より、学内研究機関と共同で東北の風土に根ざした展覧会や、他地域とのネットワーク構築のためのシンポジウムを開催してきている。また、空洞化しつつある中心市街地や中山間地域、東日本大震災の被災地域でのアートプロジェクトに地域と連携して取り組んでいる。それらの集大成となる「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」を、平成 26 年度より隔年で開催している。

■山形ビエンナーレ <https://biennale.tuad.ac.jp/>

令和 6（2024）年度は、第 6 回目となる地域芸術祭「山形ビエンナーレ 2024」を開催した。蔵王温泉エリアおよび本学を会場とした開催は初。医師の稲葉俊郎氏を芸術監督に迎え、「いのちをうたう」をテーマに、温泉地でのアート体験による心身の健康の回復を志向する 4 つのプログラムを実施した。

蔵王の風土理解にもとづく展示等に約 17,000 人の来場者を集め、200 を超える各種メディアで報道されるなど社会的な評価を得た。開催にあたっては、45 機関（企業・団体等）から協賛・寄附のご協力をいただいた。

また、文化庁補助事業「文化庁補助事業：温泉地を舞台にした持続可能な「アート＆ウェルビーイング」人材育成プログラムを実施し、49 名が受講。その成果を山形ビエンナーレ 2024 において発表した。

■文化財保存修復研究センター [文化財保存修復研究センター | 東北芸術工科大学 \(tuad.ac.jp\)](https://www.tuad.ac.jp/)

「文化財保存修復研究センター」は、山形・東北に遺された文化財の保存修復実務による地域への貢献と教育への還元を活動理念として、平成 13 年に設立され、以来、地域の自治体や博物館・美術館等、寺院・神社、コミュニティ等の委託を受け、絵画、彫刻、工芸品、歴史資料、埋蔵文化財を対象とした保存修復・保存科学研究を手掛けている。

施設・設備は東北唯一のものであり、実態顕微鏡、赤外線レーザー・クリーニング装置、デジタル・アナログ共用透過 X 線撮影・TV 観察装置、などの設備を設置しており、伝統を再度見直し、様々な地域文化遺産を次世代へ継承していく気運の高まりとともに、増加すると予想される文化財保存修復の受託・研究事業へのニーズに応えると同時に、社会的な貢献を目指している。3D 計測器、3D 切削加工機などの設備も備えているため、デザインの分野でも積極的に設備を活用し研究を遂行している。

また、文部科学省私立学校施設整備費補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）を活用し、文化財調査に必要不可欠である X 線 CT 撮影装置を導入したことで、調査手法や研究精度の向上、研究対象範囲の拡大が図られることとなった。

令和 6（2024）年度は、地域の文化財の修復業務 28 件を受託した。善寶寺五百羅漢像修復プロジェクトは 10 年目を迎え、18 体の修復を完了した。また、仙台市と本学との文化財保護に関する連携協定が締結されたことにより、センターの取り組みが学生教育にも一層活用されることとなる。

■イノベーション＆コミュニケーション研究所 <https://www.tuad-icl.jp/>

新たな附置研究機関として「イノベーション＆コミュニケーション研究所（以下「IC Lab（ラボ）」という。）」が設立された。IC Lab. は、チェンジメーカーの育成を通じて地域の持続可能性へ貢献することと、芸術系大学に対する偏見払拭や行動変容を実現するためのコミュニケーション戦略の策定・実施並びに必要な調査研究等を行うことを目的としている。

令和 6（2024）年度は、全学を対象としたビジネスプランコンテストを開催し、64 件の応募の中から 11 件を入賞企画として選定した。また、当該プランを企画した 10 名のうち、起業を目指す意志のあった 6 名を「TUAD アントレプレナー」として認定し、外部専門家を交えた独自の起業支援プログラムを提供した。

調査研究面では、学内で行った調査を研究員が分析し、そのレポートを IC Lab. のウェブサイトで公開した。